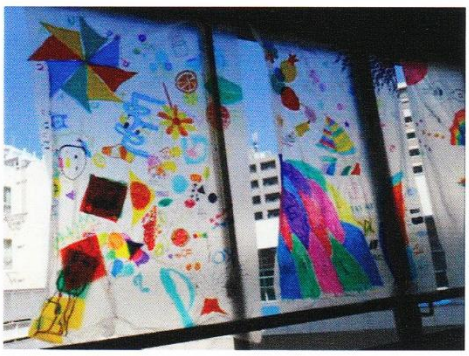
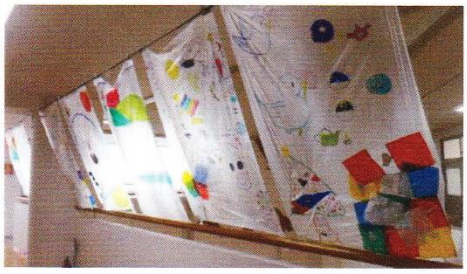
実技研　Ｃコース〈低中学年/絵・造形遊び〉

アートの寄せがき

堀井　武彦

1　題材について





(1)6 年生最後の授業「アートの寄せがき」

右の３枚の写真は、６年生の最後の授業「アートの寄せ書き」の展示風景です。卒業を２週間後に控えた最後の図工の時間で取り組みました。６年生には学校生活を振り返る徴となることを願って教室周辺に展示し、卒業式を迎えました。卒業式後も在校生が６年生との思い出を重ね合わせ、「アートの寄せがき」が６年から在校生の進級を祝福するエールの徴のとして、修了式まで校内を包み込んでいるように映りました。

(2)「アートの寄せがき」設定の理由

①1 回（2 コマ）で完結する題材

勤務校では１単位時間 40 分で時間割が組まれており、12 月より諸行事が重なる上、卒業式が３月中旬に行われるため、６年生の３学期の図工は最大でも５回あればいい方です。更に、中学受験が重なると個別にはさらに少なくなります。そのような環境の中で、いかにして人生最後の図画工作（中学からは「美術」になるため）のまとめるかという、なんとも後ろ向きな事情がきっかけでした。

②準備や片付けが簡単で、手軽に取り組める題材

一般的に準備や片付けが煩雑な題材（土粘土や版画等）の活動ほど、子どもたちは生き生きと活動するというのが経験則からの実感です。それに反して、授業者にとっては腰が引ける？というのも実感です。そこで、軽量で扱いも簡単な養生シートとマーカーや色セロハン、接着も一般的な水溶のりの平易に活動可能な材料構成を考えました。

③ダイナミックかつ“映える（ばえる）”題材

光の色を使った造形は、それが自然の光であってもＬＥＤの様な人工の光であっても、一般的に画用紙に描くパスや絵の具等の物質的な描画材に比べ、子どもたちの目には新鮮に映るようです。例えば、ステンドグラスの活動では、何度も何度も太陽の光にかざしてその効果を確かめようとする積極的な活動が見られます。また、ダイナミックさというのは、けして大きさや長さのことだけでなく、窓に貼る、天井から吊るすなど、机上や壁面等の固定的状況と比べると“映える”という意味です。

(2)　「協働製作」としての「寄せがき」

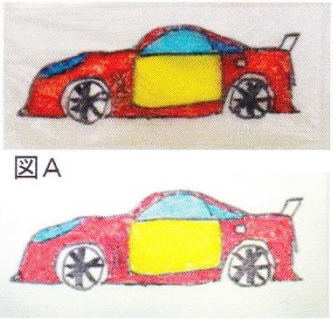
学校生活で一般的に「寄せがき」する場面は、卒業アルバムや文集、年度末に学級担任やクラスメートに向けて、転校する友人に向けて等、その場で思い浮かぶ送る相手のエピソード等をメッセージを色紙や付箋等に書きます。でも、これは見方を変えると**「協働製作」**と考えることができるのではないでしょうか。一般的に色紙にまとめる寄せ書きは様式が固定的ですが、メッセージに込められた思いは様々で、多様な思いの総体がメッセージとして立ち上がる「コラボレーション」の機能をはたしているのではないかと考えてみました。まして、「アートの寄せがき」であれば、個々の子どもの造形が予定調和的に収斂するのではなく、形や色が交響する協働的な「コラボレーション」となることが期待できるであろうと。もっとも、活動の過程において、自然発生する主題の展開や転換やは大いに歓迎したいことです。

2　材料について

(1)　「透過性」を活用した表現

「透過性」とは、透けて見える、光を通すという物質の性質のことです。「ステンドグラス」のような題材で活用されています。図Aの上段は、画用紙を下敷きにして養生シート上にマーカーで描いた状態、下段はそれを窓に貼って光を通した状況で撮影したものです。言うまでもなく見た感じが違います。この**「見た感じ」**の違いを認識することが図工の**「知識」**であり、それを活用することが図工の**「技能」**ということになります。

今流行の**「映える（ばえる）」**は、図工の**「知識」**かも？



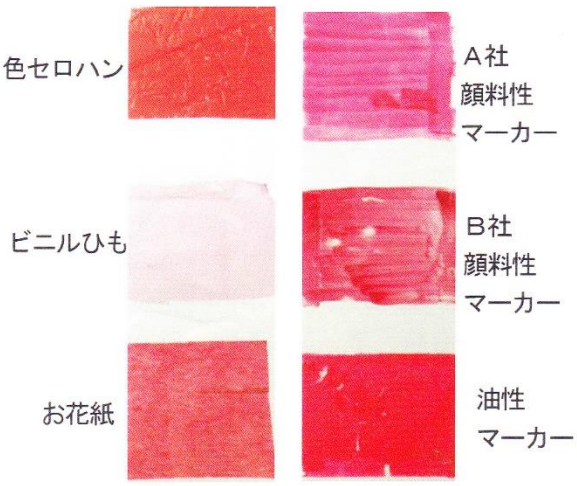
図A

(2)　「知識」としての材料の特性

①描画材の透過性

本題材では、透過性描画材を使います。図Bは、本題材で使用する描画材の色見本です。養生シートに描き、窓に貼て自然光を通した状態で撮影しました。印刷では判別しにくいですが、各描画材の「赤」として認識される材料の**映え（ばえ）の違い**を捉えていただければと思います。

一般的な透過性材料としては、色セロハンが一般的ですが、お花紙やビニルひも（スズランテープ）等も活用可能です。また、マーカー類では、油性マーカー（染料系）が透過性描画材として適していますが、水溶性顔料マーカーも活用可能です。これらを全てそろえる必要はありません。授業者が**知識**として描画材の特性を知っておけば、実情に合わせて、無理のない範囲で材料を準備できます。そして、活動を通して子どもたちの**知識・技能**へ転移します。



図B

② 養生シートの特性　ーその１ー

養生シートは、900mm×200m巻きで2～3000円程度（検索すれば様々）です。量的には十分なので様々な活動に流用できます。養生シートは半透明です。この半透明という特性は、ステンドグラスのような透過性を活用した活動では大切な**知識**です。例えば、色セロハンは透明なので、透けて見える景色等が、セロハンの色を判別しにくくなります。そのため、最近の実践では、トレーシングペーパーを挟んで光を均質化させて、色を淡く均質に**映え（ばえ）る効果**を活用した実践が多いようです。また、養生シートは軽いので、まず、持ち運びや収納が便利です。そして、ダイナミックな造形になっても軽量なので張る、吊るす、巻き付ける等の操作も容易にできます。

③ 養生シートの特性ーその２ー

半透明とはいうものの、下に図を密着させると透き通って見えます。図Cでは、白い模造紙を下敷きにして、机の色がマーカーの発色を邪魔しないようにしています。この特性を活用すると、**同じ形を複数描く場合や「思うように描けない」**と活動が停滞しがちな子どもたちには、下に描きたい写真等を置いて写すことを提案できます。今や**コピー＆ペースト**が視覚情報操作の主流です。写実する**技能の獲得**に拘り過ぎないで、イメージを再構成する資質・能力の育成に重点を置くことも大切だと考えます。そのことは、**プログラミング教育**にも発展していくと考えています。

図C

(2)　共同（cooperation）から　協働（collaboration）へ

本題材では、**共同＝大きな仕事を均等に分担する活動、協働＝個人の特性を生かして各自が併行して活動すること**、と考えます。主旨は**「協働製作」**の項で前述した通りです。**対話的で深い学びのモデル**として、**出たとこ勝負、やりながら考える、摩擦が起きた時に折り合いを探る**ことを提案します。そこで働く**思考・判断・表現**を機能させる**知識・技能**、それらを束ねる**学びに向かう力と**考えてみるのはいかがでしょうか。

あれこれ ひろがれ
ペーパーワールド

2019.8.1

紙とハサミとちょっとの仕掛けで遊びのアイデアを広げながら、自分でできること、できてしまうことを見つめます。

そして・・・

図画工作の「知識」とは？

という視点から、その特徴と指導について感じ、考えていきます。

＜内容＞

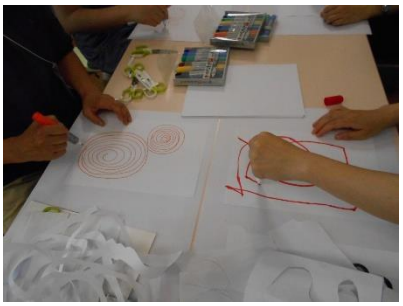
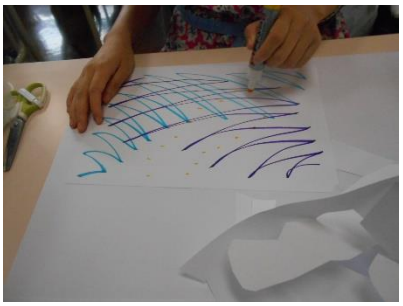
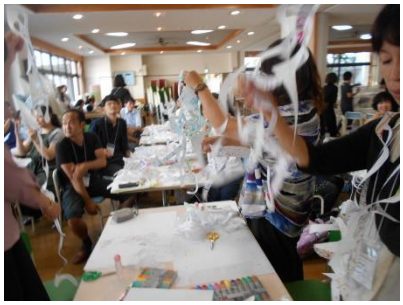
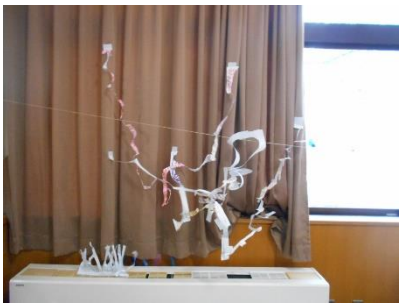
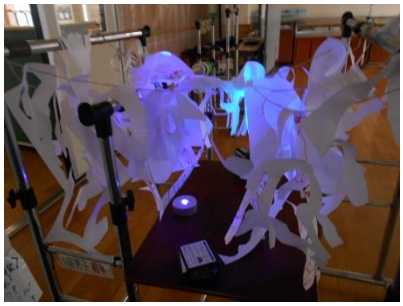
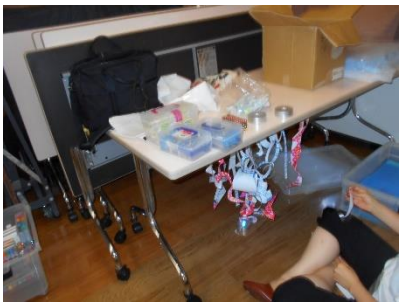
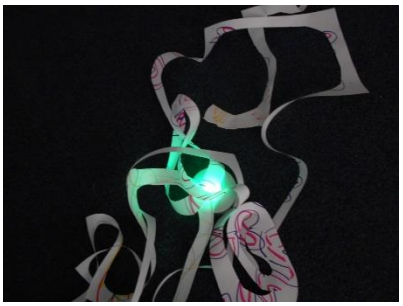
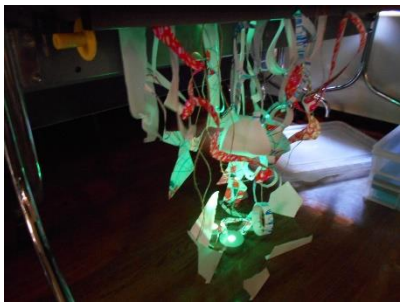
４人ほどの小グループで、ハサミによる紙の切り心地を楽しみます。そして，切った紙を組み合わせたり、ちょっとの仕掛けを加えたりしながら、思いついたことを色々試し、遊びます。

紙を切り組み合わせるというシンプルな活動の中で発見する形や色、イメージ、行為の面白さを味わっていきましょう。

＜用具・材料＞

ハサミ　A4 コピー用紙

セロファンテープ

LED ライト

麻ひも　等